

第6次国立大学法人等施設整備5か年計画 における整備目標について

整備目標の基本的考え方

- ① 老朽改善整備
- ② ライフライン更新
- ③ 新增築整備
- ④ 附属病院整備

整備目標の試算の合計

整備目標の基本的考え方

- 国立大学法人等のキャンパスを、長期にわたり教育研究の基盤として機能させるためには、長期的視点に立った見通しの下で整備を進める必要があることから、今後、国立大学法人等全体として必要となる整備面積等を明らかにし、計画的・重点的な整備を推進するとともに、**共創拠点の実装化と地域の防災拠点の実現に向け、その必要性について広く理解を得ることが重要**である。
- 次期5か年計画期間においては、国立大学法人等の施設の現状や課題と方向性を考慮しつつ、**共創拠点や防災拠点として十分な機能を持ち、質が高く、魅力的で安全な教育研究環境の確保とその一層の高度化に向けて、次に掲げる整備を推進することが必要**である。
- なお、以下の検討は、国立大学法人等全体として**今後必要となる整備量の大枠を把握するための一定の仮定に基づいた試算**である。具体の長寿命化に向けたライフサイクルの検討や整備内容については、国立大学法人等全体の状況に応じて行われるものであり、必ずしも全ての施設について、試算のライフサイクルや整備内容の通りに改修等をしなければならないことではない。

① 老朽改善整備

✓ 整備目標の考え方

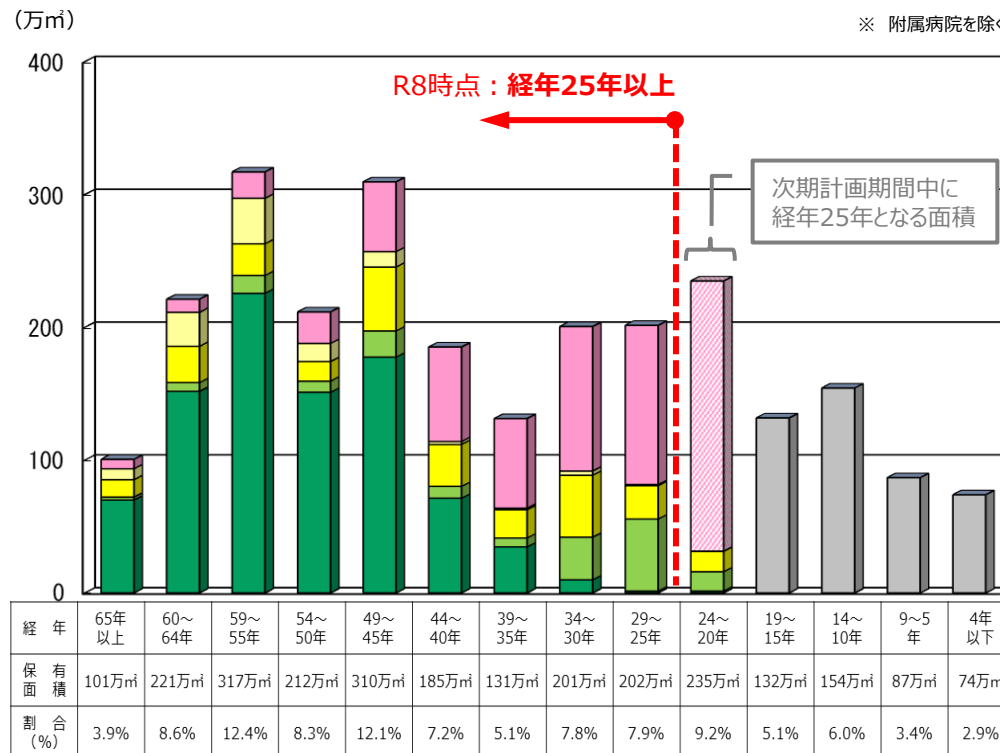
- **戦略的リノベーション（※ 1）や性能維持改修（※ 2）による老朽改善を基本**とした耐災害性と機能の強化によって、国立大学法人等の施設を、最大限有効活用しながら、安全・安心で質の高い魅力ある教育研究環境を確保する。
- 次期 5 か年計画開始時点に存在する**老朽施設（※ 3）**については、**当該計画期間中に概ね老朽改善整備を行う**。
- **戦略的リノベーションによる耐災害性と機能の強化が困難な経年45年以上の老朽施設については改築を検討**する。
- **施設総量の最適化の観点から、経年45年以上の老朽施設の一定割合については取壊しを見込む**。
- 次期 5 か年計画期間中に**老朽施設となるものについて性能維持改修を行う**。

（※ 1）戦略的リノベーション：大規模改修に当たり耐災害性の強化と同時に施設の機能強化を図ること。

（※ 2）性能維持改修：建物の物理的な性能を維持するために行う外部（屋上防水、外壁等）の改修等。

（※ 3）老朽施設：建築後又は改修後、25 年以上改善が行われていない施設（未改修及び部分改修済）。

次期 5 か年計画開始時の経年別保有面積（令和 8 年 5 月 1 日時点の推計）



- 未改修（経年20以上で外部、内部、耐震の全てが未改修）
- 部分改修済（外部、内部、耐震のいずれかが未改修）
- 部分改修済（全面改修後25年以上経過）
- 性能維持改修（外部、外壁、外部建具）全てが改修済み
- 改修済（外部、内部、耐震の全てが改修済み）
- 経年20年未満

保有面積計 2,560万㎡ 老朽施設計 832万㎡ 老朽化率 32.5%

* 保有面積について、小数点以下を四捨五入しているため合計は一致しない

① 老朽改善整備

整備目標

老朽改善整備 779万㎡ 又は 629万㎡ 【試算額 9,799億円 又は 8,598億円】

大規模改修・改築 240万㎡
性能維持改修 539万㎡ 又は 389万㎡

※ 附属病院を除く。

✓ 整備内容 (経年は次期5か年計画開始時点)

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

(経年45年以上)

- ① 未改修施設は全て大規模改修等 [8割：大規模改修、1割：改築、1割：取壊し] 113万㎡【3,250億円】
- ② 部分改修済施設は全て小～大規模改修等 [8割：小～大規模改修、1割：改築、1割：取壊し] 127万㎡【2,236億円】
- ③ 大規模改修後25年以上経過した施設は全て性能維持改修 93万㎡【746億円】

(経年35年以上45年未満)

- ④ 未改修施設のうち、施設の物理的な性能を維持するために至急対応が必要な施設の1割を性能維持改修 14万㎡【111億円】

(経年35年未満)

次期計画以降の10年間に老朽施設となる面積(次期計画開始時点で経年15～24年)が351万㎡増加する中、現行計画における性能維持改修の進捗状況を踏まえ、段階的整備案についても試算を行う

<加速化整備案>

- ⑤－1 次期計画期間中に老朽施設となる経年20年～24年の未改修施設を含め、経年35年未満までの未改修施設を全て性能維持改修 432万㎡【3,456億円】

又は

<段階的整備案>

- ⑤－2 経年15年以上の未改修施設も含め、経年35年未満までの未改修施設を10年間で性能維持改修(次期計画ではその5割) 282万㎡【2,255億円】

老朽改善整備の試算（性能維持改修 加速化整備案）

次期5か年計画開始時の経年別保有面積（令和8年5月1日時点の推計）※ 附属病院を除く

（万㎡）

① 未改修 113万㎡

8割 大規模改修
1割 改築、
1割 取壊し

経年45年以上

経年25年以上

経年25年未満

- 未改修（外部、内部、耐震の全てが未改修）
- 部分改修済（外部、内部、耐震のいずれかが未改修）
- 部分改修済（全面改修後25年以上経過）
- 性能維持改修済（屋上防水、外壁等が全て改修済）
- 改修済（外部、内部、耐震の全てが改修済）
- 経年20年未満

② 部分改修済 127万㎡

8割 小～大規模改修
1割 改築
1割 取壊し

⑤ - 1 未改修

432万㎡

全て性能維持改修

次期計画期間中に
経年25年となる面積

④ 未改修の1割

14万㎡

性能維持改修

③ 大規模改修後25年以上

93万㎡

全て性能維持改修

200

100

0

（経年） 65年 以上 60～ 64年 55～ 59年 50～ 54年 45～ 49年 40～ 44年 35～ 39年 30～ 34年 25～ 29年 20～ 24年 15～ 19年 10～ 14年 5～ 9年 0～ 4年

老朽改善整備の試算（性能維持改修 段階的整備案）

次期5か年計画開始時の経年別保有面積（令和8年5月1日時点の推計）※ 附属病院を除く

（万㎡）

① 未改修 113万㎡

8割 大規模改修
1割 改築、
1割 取壊し

経年45年以上

経年25年以上

経年25年未満

- 未改修（外部、内部、耐震の全てが未改修）
- 部分改修済（外部、内部、耐震のいずれかが未改修）
- 部分改修済（全面改修後25年以上経過）
- 性能維持改修済（屋上防水、外壁等が全て改修済）
- 改修済（外部、内部、耐震の全てが改修済）
- 経年20年未満

② 部分改修済 127万㎡

8割 小～大規模改修
1割 改築
1割 取壊し

⑤ - 2 未改修の5割
282万㎡
性能維持改修

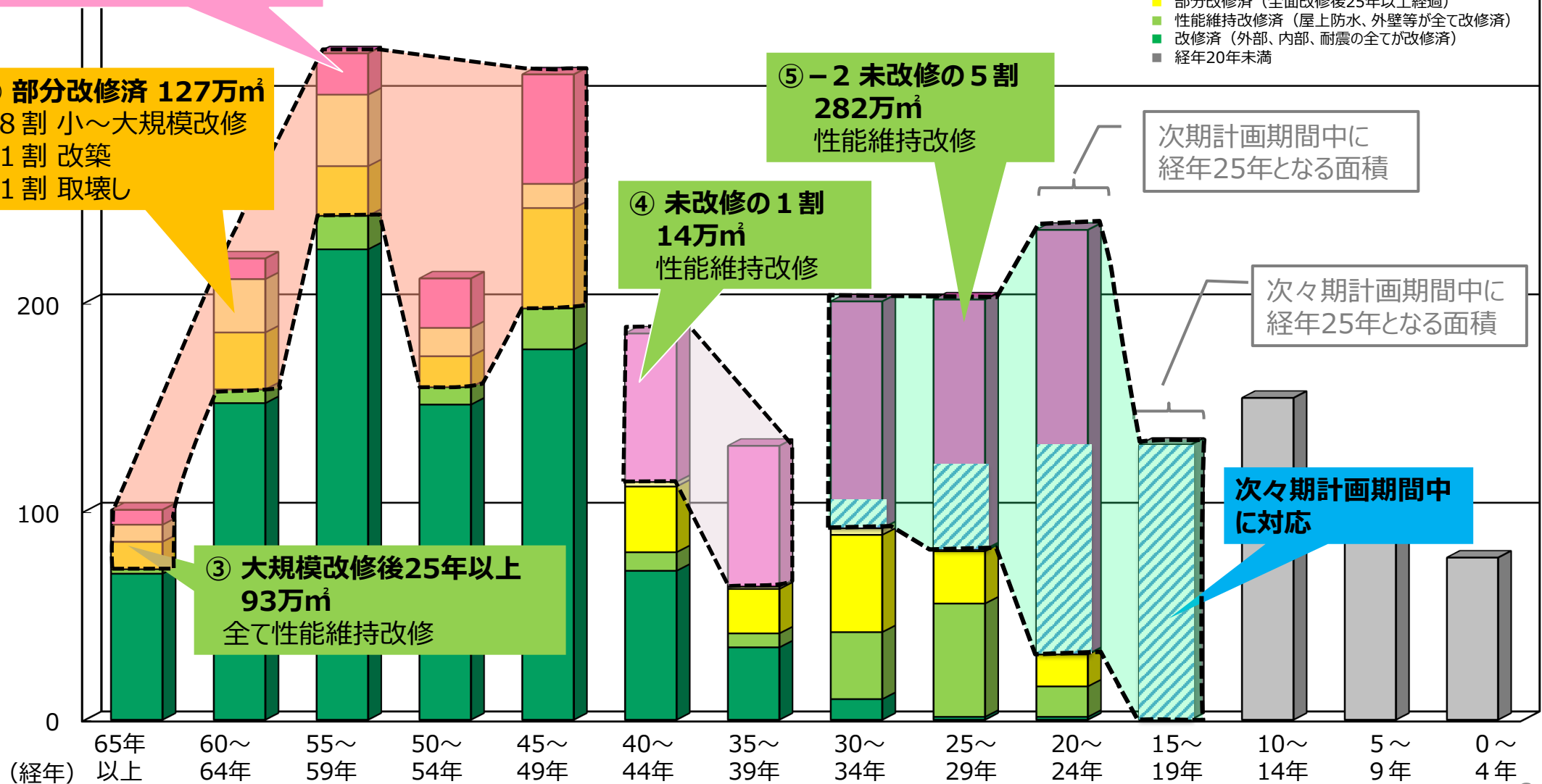
④ 未改修の1割
14万㎡
性能維持改修

次期計画期間中に
経年25年となる面積

次々期計画期間中に
経年25年となる面積

次々期計画期間中
に対応

③ 大規模改修後25年以上
93万㎡
全て性能維持改修



経年別保有面積（令和8年5月1日時点の推計）

老朽改善整備の試算の合計

(加速化整備案 / 段階的整備案)

整備項目	整備目標	試算額
① 老朽改善整備（５年間）	779万㎡ / 629万㎡	9,799億円 / 8,598億円
大規模改修・改築等	240万㎡	5,486億円
性能維持改修	加速化整備案 539万㎡ / 段階的整備案 389万㎡	加速化整備案 4,313億円 / 段階的整備案 3,112億円
老朽化率（次期計画期間終了時）	10.7% / 16.7%	

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

性能維持改修促進の方策

【第5次5か年計画期間の取組】

- 性能維持改修については、国立大学法人等施設を長寿命化のライフサイクルへと転換させていくことを念頭に、第5次5か年計画から整備目標面積（560万㎡）を定めている。
- この点、文部科学省では、最重要課題である老朽改善整備等のうち、資産形成をなす大規模改修やライフラインの更新について特に重点的に支援（予算措置）を行っている。
- 第5次5か年計画期間においては、性能維持改修の整備実績（推計値）は202万㎡となり、進捗率は36%にとどまり、そのうち施設整備費補助金による整備実績は86万㎡（15%）となっている。

【中間まとめの記載】

- 中間まとめにおいても第5次5か年計画と同様に、国は資産形成をなす大規模改修やライフラインの更新を重点的に推進することとしている。

＜中間まとめの記載（抜粋）＞

国立大学法人等のキャンパスは国家的な資産を形成するものであることから、国は引き続き必要な予算の確保に努めるとともに、最重要課題である老朽改善整備等のうち、資産形成を成す大規模改修やライフラインの更新を重点的に推進していく必要がある。また、各国立大学法人等においても積極的に多様な財源を活用し、施設の長寿命化を含む施設整備の充実を図ることが必要である。

【性能維持改修推進の方策】

以上を踏まえ、次期計画期間において長寿命化のライフサイクルへの転換のための性能維持改修を推進するため、国や国立大学法人等においては、以下のような推進方策が考えられるのではないかと。

（国立大学法人等の取組）

- ・ キャンパスマスタープランや個別施設計画など、施設に係る総合的かつ中長期的な計画を、大規模改修を基本とした従来のライフサイクルから長寿命化のライフサイクルへの転換を念頭において再構築し、その実現のための整備手法として性能維持改修を明確に位置付けること。
- ・ これらの計画に基づき、性能維持改修や日常的な維持管理を着実にを行うため、各法人の人的資源や予算の一部を、性能維持改修へ充当すること。

（国の取組）

- ・ 各国立大学法人等において性能維持改修が定着するまでの当面の間を念頭に、施設整備費補助金における「長寿命化促進事業」を拡充するなど確実な予算措置を行うこと。
- ・ 各国立大学法人の参考になるよう他分野の施設等まで範囲を広げて事例を調査するなど、必要な調査研究を行い、その結果を周知すること
- ・ 各法人の計画の策定状況とその実行状況についてフォローアップを行うなどして、長寿命化のライフサイクルへの転換が進捗しているか確認するとともに、その結果に応じてインセンティブを講じるなどして各法人の取組を加速化を図ること。

② ライフライン更新

整備目標

ライフライン更新（配管・配線 2,176km 、設備機器 3,496台）

【 所要額 1,843億円 】

✓ 整備目標の主な考え方

- 通常の維持管理では対応できない老朽化に起因する機能劣化の著しい基幹設備（ライフライン）について、事故の未然防止及び災害時の教育研究の継続性の確保並びに学生・教職員の安全・安心の確保や教育研究の発展に対応できるよう、耐災害性や機能の強化を図る。

✓ 整備内容（経年は次期 5 か年計画開始時点）

※ 附属病院を除く

（主要配管配線）

- 法定耐用年数の 2 倍を超える設備を10年間で更新（次期計画ではその 5 割）

約 2,176km 【 640億円】

（主要設備機器）

- 老朽状況をこれ以上悪化させず、長期的に次期計画開始時の老朽状況を定常化

約 3,496台 【1,203億円】

③ 新增築整備

整備目標

新增築整備 15万㎡

【 所要額 780億円 】

✓ 整備目標の主な考え方

- 教育研究機能の強化や社会への一層の貢献が求められているところ、そのためのスペースは、既存施設の戦略的リノベーションや施設マネジメントの取組等によるスペースの効率化・再配置により確保することを原則とする。既存施設の有効活用等のみでは対応が困難で、真にやむを得ないものについては新增築による整備を図る。
- 将来にわたって維持管理費及び改修や取壊し費用等の増大に繋がるため、ライフサイクルコストの財源の見通しの確保や他施設における取壊しの検討等、総量最適化に留意する。
- 施設総量については、各国立大学法人等のミッションや機能強化の方向性等を踏まえた適切な判断を促した上で、次期計画期間中において、国立大学法人等全体として保有面積を増加させないよう留意する。

✓ 整備内容

※ 附属病院を除く

（新增築整備）

- 新增築整備

15万㎡【 780億円】

④ 附属病院整備

整備目標

附属病院整備 25万㎡

【所要額 2,121億円】

✓ 整備目標の主な考え方

- 再開発整備による大規模改修や新增築・改修を実施する際には施設の長期利用を前提とし、費用対効果も考慮したうえで、医療技術や仕組み等の変革に柔軟に対応できる可変性を有する施設となるよう計画する。
- 附属病院の施設整備については、主に財政融資資金を活用しこれまでも計画的に推進してきたところであり、事業の継続性等や各大学の整備計画を十分踏まえ、現時点における各大学の整備計画を踏まえて算出する。
- 現在は、1980年代から順次始まった再開発整備が各附属病院において概ね一巡した状況にあるが、現下の附属病院の経営状況も注視するとともに、医学教育や附属病院の機能等に係る国の議論等も踏まえつつ、次期5か年計画期間中の整備面積については、今後の新たな計画等に応じて柔軟に対応する。
- 加えて、附属病院の経営が厳しさを増している中で、新たな再開発整備を行うことが難しい、また、整備中の再開発事業を一時中断するといった状況も生まれていることに十分に留意する必要がある。
- 附属病院における通常の維持管理では対応できない老朽化に起因する機能劣化の著しい基幹整備（ライフライン）についても、未然に事故を防止し、医療活動が継続できるよう、機能の向上を図ることを目的として計画的に整備する。

✓ 整備内容

（附属病院整備）

- 病院整備（ライフライン含む）

25万㎡【2,121億円】

整備目標の試算の合計

(加速化整備案 / 段階的整備案)

整備項目		整備目標	試算額
① 老朽改善整備		779万㎡ / 629万㎡	9,799億円 / 8,598億円
	大規模改修・改築等	240万㎡	5,486億円
	性能維持改修	加速化整備案 539万㎡ / 段階的整備案 389万㎡	加速化整備案 4,313億円 / 段階的整備案 3,112億円
② ライフライン更新		2,176km、3,496台	1,843億円
	配管・配線	2,176km	640億円
	設備機器	3,496台	1,203億円
③ 新增築整備		15万㎡	780億円
④ 附属病院整備		25万㎡	2,121億円
合計（5年間）		818万㎡ / 668万㎡	1兆4,542億円 / 1兆3,341億円

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。